

## 学びの組織的支援 - 各学科・専攻・コースの取組概要

### I 現代ビジネスコース

#### 1 取組の内容

現代ビジネスコースはキャリア選択や資格取得に直結した科目が多く、自らのキャリア形成に対するモチベーションが学習意欲に影響しますから、CTT(キャリアトライアルトレーニング)、インターンシップ、就職体験発表会等を通して就業意識を高め、事前・事後指導を徹底して、「気付き」と「やる気」を促します。

そして、クラス担任や科目担当者だけでなくスタッフ全員、学生同士、さらには卒業生までもが学生生活全般についてサポートすることが特徴です。

1 年次には、互いの信頼関係を築くことが大切だと考えて、皆さんと向き合います。入学後の環境変化に戸惑う前期と自分のキャリアを本格的に考え始める後期の2回に渡って、全員を対象に、担当教員が面談を実施しています。

2 年次は、学生同士が互いにサポートする環境の構築に重点を置きます。コーススタッフは学生の状況を日常的に情報共有しながら、適切に支援できる体制を取っています。

なお、各学期の履修状況や成績、取得単位数等については、個人成績の変化や全体の分布などをあらゆる視点から集計・分析し、活用しています。さらに、個々の置かれている状況等を勘案し、最適な指導についてスタッフ間で丁寧に検討しています。

#### 2 取組の目標

現代ビジネスコースは卒業生全員が豊かな社会生活・職業生活を送ることを目標としています。

まずは、多様な分野の講義・演習等を通して、キャリア選択の幅を広げ、自らの適性を見いだして欲しいと考えています。その選択を可能とするためには「どんな職場でも共通して必要とされる知識・技能・態度」をしっかり修得することが大切です。そして、資格取得や検定試験に向けた学修を通して、皆さんの努力が実を結び、成果につながる経験をして欲しいと思います。多くの資格が取得可能ですから、誤解や思い込みによるトラブルを防ぐためにも、カリキュラムの説明や学修支援、履修計画のアドバイス等を丁寧に行います。短大の2年間という短い期間で学業だけでなく、学校行事、就職活動など複数の事案を同時進行する中で、時間の使い方・作り方を考えることが習慣となります。そうして「学ぶスキル」を身に付け、自律的・主体的に自らを磨き続ける姿勢・態度を高めます。

現代ビジネスコースはお互いが努力している姿がお互いを刺激し、自然と頑張れる雰囲気になっています。一緒に頑張る友人は、在学中だけでなく、一生心強い存在となるはずです。我々のサポートも一生続きます。

## II デザイン表現コース

### 1 取組の内容

デザイン表現コースでは、伝統的手法と現代の技術の融合によって、生活と心を豊かにする「用と美」の創造を教育研究の対象としており、周囲と協働し、探究し、創意工夫を重ねて、新たな価値の創造に挑戦し続ける人材の養成を目標としています。

デザイン表現コースのカリキュラムは全学共通の総合人間科目と「デザイン・アート」「ファッション」「キャリア」の3分野からなる専門教育科目からなります。一年前期には、それぞれの表現手法の基礎知識・技術を学び、一年後期から二年後期にかけては、各自が選択した複数分野の作品制作に取り組みます。作品は大学祭での展示や公募展出品、学外で開催する卒業制作展で発表します。

また、全員が個人所有のMacを持ち込み（BYOD）、デザイン業界では必須となるAdobe Creative Cloudの操作を学びます。デジタルワークと手作業による作品制作の両方に取り組み、複数の表現手法を修得することで、より発想を豊かにすることを目的としています。

### II 取組の目標

カリキュラムの実施においては、次のことを目標に掲げています。

- 多面的な尺度で“美しさ”を考える。
- 意図に応じて適切に材料や用具を扱うために、その特性を十分に理解する。
- 主題に沿った表現方法を徹底して追及し、創造的な表現の構想を練る機会を設ける。
- 手順や手法を吟味し、工夫して表現する能力を育成する。
- 周囲の評価を前向きに受け止めて的確に自己を評価する能力を磨き、課題を見つけ、自らを高め続けようとする姿勢を身に付ける。
- 複数分野を学ぶことによって、発想が豊かになることに気付けるよう配慮して、科目間の連携を図る。

在学中の作品は大学祭での展示や公募展出品、学外で開催する卒業制作展で発表します。そのための企画・運営を含め、広報媒体・各種資料の作成から設営・搬入・出演・音響・照明・演出・撤収までのサイクルを複数回、経験することで本学での学修を十分に活用し、卒業後の社会生活や日常生活を充実させることにつながると期待しています。

デザイン表現コースでの二年間を通して、創意工夫や試行錯誤が習慣となります。周囲の環境や価値観の変化に柔軟に対応し、周囲と協働して、チャレンジすることを楽しむことができます。

### Ⅲ こども学専攻

#### 1 取組の内容

こども学専攻では、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することを目指しています。単に免許・資格取得を目指すだけであれば、必要な授業を受講し、必要な単位を取得すればよいのです。しかし、今時代が求めているのは、自ら考え、子どもの立場に立って行動できる保育者です。そこでこども学専攻では、「豊かな子ども理解」を備えた保育者の養成を目指して、次のような取組みを行っています。

- ①入学時の早い段階から、実際の子どもの姿に触れる機会を数多く設け、子ども理解を深めています。
- ②子どもの姿から学び、考えたことを確かめたり、試したりする機会を設けています。
- ③幼稚園教育実習や保育実習を通して、保育者としての確かな実践力を育みます。
- ④2年間、子どもについて様々な角度から学び掘り下げて考える機会を設け、豊かな子ども理解と生涯にわたる探求心をもった保育者を養成します。

こども学専攻には、「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ」という体験重視型の授業からスタートし、「こども学概説」から卒業研究「こども学研究」に取り組むという、「こども学」について深く系統的に学ぶことのできる確かな道筋が用意されています。

#### 2 取組の目標

こども学専攻では、2年間という短い期間であっても、「確かな人間観」と「豊かな子ども理解」に立てる保育者の養成を目指しています。単なる資格取得に留まらない学びの機会を提供するため、次のことを目標に授業を展開しています。

- ①学生自身が自ら考え、行動する機会を大切にする。
- ②入学時の早い段階から、実際の子どもの姿に触れる機会を多く設ける。
- ③実習で必要とされる力の基礎作りを大切に、実習の機会がより効果的になるようにする。
- ④「こども学」のもつ幅広い視野と将来のキャリアプランを育てるために、認定絵本士資格関連科目をはじめ多様な教養科目を配置し、保育者としての人間力を育む。

2年間の授業の中で大切にしていることは、繰り返し学ぶことです。同じことを繰り返すのではなく、まずは「子どもを知る」ことからスタートさせ、具体的なイメージを持ちながら子どもと関わる段階へ、そして、自分の持つ子どものイメージと実際の子どもの姿との隙間を埋めていく段階へ。この過程の中で、何度も繰り返し子どもについて考え、実践することで、深い子ども理解に立つ確かな実践力を持った保育者を養成します。

## IV 食物栄養専攻

### 1 取組の内容

食物栄養専攻は栄養士免許証、フードサイエンティスト、選択履修で栄養教諭二種免許状の取得を目指して様々な支援に取り組んでいます。

入学前には入試合格者に対して調理の課題とレポート、家庭料理技能検定の学習、基礎計算・生物・化学などの準備学習を課しています。その際、テキストを指定して学習内容を具体化して取り組み易くしています。家庭料理技能検定は入学後に4級を受験、基礎計算も入学後にテストを実施しています。入学前の集いを3月に開催し、学生生活の紹介、基礎計算や生物化学の講座、在学生・教員との懇親昼食会を実施して短大での学びを準備する機会を提供しています。

専門教育科目の各科目は栄養士に必要な専門性が網羅的、段階的に学修出来るようにナンバリングされ、適正な時期に開講されるようにカリキュラムを毎年検討しています。その際、授業アンケートを実施して学生の意見を参考にしつつ改善を図っています。

校外・学外実習に関しては専攻内規を設けています。認定試験やGPAを活用し、学生生活の目標を掲げて、専門性や社会性が所定の基準を満たした学生が実習を履修するようにしています。1年次の春休みにはインターンシップを病院、保育園、レストランで実施して厨房を職場体験しています。全国栄養士養成施設協会主催の栄養士実力認定試験への対応として、受験対策科目を設けて専門科目を復習できるようにしています。

入学後の指導はクラス担任制を設けています。学生生活の状況や学修成果に関しては、専攻のミーティング等で学生個々人の受講態度、欠席、成績等の情報を共有して担任を中心に教職員が指導しています。

キャリア支援に関しては、キャリア支援科目などを通じて自己分析や履歴書作成等に取り組み、担任がキャリア支援課と連携を取りながら個別指導しています。特に課題を抱える学生に対しては担任が学生と個別面談し、必要に応じて専攻スタッフや専門家を交えて連絡を取り合い保護者と面談して解決を図っています。

### 2 取組の目標

食物栄養専攻には食への関心を持った様々な学生が入学してきます。これら学生が食に関する学修を通じて将来の進路を考え、希望の実現を支援することが目標です。

食物栄養専攻の学びは、

- ①栄養士業務への理解を深め、業務遂行に必要な専門知識と技術を修得すること。
- ②協働作業などで必要となる社会性を育み、社会で必要なマナーを修得すること。
- ③自己理解を深めて自分の適性を知り、適切な進路選択ができること。
- ④栄養教諭選択者は、栄養教諭への理解を深め、学校給食や食育に関する専門知識と技術を修得すること。

を具体的な目標としています。

目標を達成するために入学前から卒業に至るまで専攻全体で次のような組織的支援を実施し、点検と改善に取り組んでいます。

- ①入学前の指導では食物栄養専攻の学びの特徴を知り、学生が苦手な分野の事前学習や学生生活の情報を提供することで学びへの円滑な導入を図ります。
- ②入学後は、学生の資質に見合いかつ栄養士に必要な専門性と社会性に適う到達目標が修得できるようにカリキュラムを編成して授業運営します。
- ③学生の諸課題に対して担任、専攻スタッフ、各部署が連携して指導や個別面談などを実施し、多様な学生が円滑に学びを進めて進路選択できるよう支援します。

食に関する諸課題への対応が重要な現代社会において、食、栄養と健康の分野に興味関心を持つ高校生の夢や地域社会の要望に応え、栄養士や栄養教諭などの必要な人材を養成して社会に送り出し、高等教育機関としての責務を果たすことを目指しています。

## V 英語科

### 1 取組の内容

近年、英語科には英語が大好きだが、得意とは言えないという学生も入学してきます。入学以前には、課題の一つとして、それぞれ自分の学力にあった教材を使って英語学習を行ってもらい、基礎を復習するように推奨しています。入学直後プレイスメントテストを行い、主な授業は習熟度別クラス編制になります。学生は英語力に応じて適切なレベルの授業を受けることができます。また、基礎的な英文法に自信がない人が自由に参加できる早朝講座も設けています。正規の授業ではありませんが、予習は必要なく、不明な点はすぐ質問できます。さらに、Academic Advisor 制度を作り、学期中に2回担当のアドバイザーが個人面談を行い、学業面をサポートしています。

授業についても、基本を身につけてもらう科目を設定しています。「JEBベーシックス」では授業の受け方、勉強の仕方、語彙力増強法、プレゼンテーションの基本を学んだり、eラーニングでの英語学習を行ったりしています。

寮生活では、原則として英語を使用することになっていますが、寮監、二人のネイティブ教員が英語面、生活面をサポートし、学生一人ひとりが寮の環境に速やかに適応できるよう配慮しています。

### 2 取組の目標

この取り組みの目標は英語力に自信のない学生でも、英語科全体の目標を達成することができるように手助けを行うことです。直接的には、短大で行われる授業のレベルについていけるようにしっかり基礎的な英語力の習得をサポートし、英語面での不安を取り除きます。そうすることによって、英語科の特徴である体験（寮生活、海外研修、様々な国際交流など）を通して、より効果的に英語力を向上させることができるようにしています。

英語科の目標は、学生が実践的な英語力を磨き、国際的なビジネスの場で活躍できるスキルを身につけるとともに人間的な成長ができるようにすることです。基本となるのは英語力の向上ですが、具体的な英語力の到達目標は、全員が実用英語検定2級に合格すること、TOEICで卒業時の平均スコアが550となることです。様々なサポート体制により、入学時、英語力に自信のない学生（TOEIC350未満）であっても、卒業時には実用英語検定2級を全員が取得し、TOEICのスコアについては200アップさせ、Cランク（470以上）のレベルに引き上げることを目指しています。ちなみに、前年度の卒業生の最終成績は実用英語技能検定2級取得者率が83.9%、TOEIC L&R(IP)の平均スコアが484.2、2年間の伸びは139.8、Cランク以上（470点以上）が56%（入学時13%）という結果でした。目標を達成するべく、今後も更に力をいれてこの取り組みを続けていきます。